

高山の歴史：高山城

金森長近（1524-1608）が高山城を築いたのは1588年。彼はその3年前の1558年からこの地を治めていた三木家の三木頼綱（1540-1587）から飛騨国を支配下においた長近は織田信長（1534-1582）、豊臣秀吉（1536-1598）、徳川家康（1543-1616）の「三大天下人」すべてに仕えた。長近は、秀吉のために松倉城を攻略した後、飛騨藩の支配権を与えられた。長近はその支配権をより確実なものとするため、宮川と江名子川が交差する標高687メートルの岬に高山城を築かせた。

日本の城の本丸は一番奥の台地にあり、大名が住むことは稀であったという。しかし、高山城の本丸には何十もの部屋があり、風呂や町を見下ろす茶室もあったことから、ここで客をもてなしていたのかもしれない。

長近の子孫は、1692年に幕府が金森家を上山藩（山形県）に転封するまで高山を統治した。飛騨藩は、幕府がこの地を直接統治するまでの3年間、有力大名である前田家が統治していた。城は石垣のほとんどを含めて解体されたが、一部の建物は保存されて移築された。旧藩政本部である高山陣屋の長屋は、旧城の米蔵だったと思われる。また、法華寺の本堂も高山城の一部であったと考えられている。